

# 韓国の中の小さな中国 **チャイナタウン**



## 17 清日租界境界階段(市記念物第51号)

1883年に設定された日本の租界と1884年に作られた清国の租界の境界線にある石の階段。階段の両脇にはそれぞれの国の石塔が立ち並び、階段を上った所には中国の青島から寄贈された孔子の巨大な石像が立っている。仁川の近・現代史を端的に現しているスポットだ。階段に向かって左側が清国、右側が日本の租界。境界階段を中心に左右に異なる建築様式が見られる。☎ 032) 760-6470



## 18 三国志壁画通り

三国志の小説に登場する劉備・関羽・張飛・諸葛亮などの武勇と智略が描かれた全長150mの大型壁画。歴史についての故事成語や絵を鑑賞しながら過去にタイムスリップしたような時間旅行が楽しめる。☎ 032) 760-6480



## 19 楚漢志壁画通り

通りを歩きながら中国の秦王朝末期から漢王朝建国までの時間旅行が楽しめる。『楚漢志』の代表的な事件や人物などを描写した名場面が110mにわたって展開される。☎ 032) 760-6480



## 20 チャイナタウン通り

仁川駅から牌楼(門)を過ぎて丘を上っていくとチャイナタウンのメインストリートに出る。中国の伝統衣装であるチーパオ(チャイナドレス)を着た商人たちや中国近代建築物、そして赤い色の看板や赤い提灯などが目の前に広がる。中華料理の代表メニューであるジャージャー麺、コンガルバン、中国伝統菓子の月餅、そして中国の伝統茶などが味わえる。☎ 032) 760-6480



## 21 ジャージャー麺博物館(旧共和春、登録文化財第246号)

韓国のジャージャー麺の発祥地である中華料理店「共和春(コンファチュン)」を2階建ての建物に増築して歴史や文化などの関連遺物を展示している博物館。☎ 032) 773-9812



## 22 牌楼(中華街・善隣門・仁華門・韓中門)

威海市が寄贈したチャイナタウンのシンボル。部落の出入り口や大通りをまたがって建てられる中国の伝統的建築様式の門。精巧で美しい建築装飾が特徴で、邪気を払い払うとともに街の繁栄を願って建てられる。☎ 032) 760-6480



## 23 韓中文化館及び華僑歴史館

韓中文化館と華僑歴史館は韓国と中国の歴史が共存している仁川チャイナタウンにある。韓中文化館では韓国と中国の文化交流のための各種公演や中国文物展示室、中国文化体験プログラムなどが運営されている。また、韓国初の華僑展示館である華僑歴史館では、1894年にチャイナタウンに定着した華僑の歴史や文化を知ることができる様々な遺物が展示されている。☎ 032) 760-7860-6



### 観光案内所と官公署のご案内

- 仁川観光案内所 032)777-1330
- 中区庁観光振興室 032)760-6480、6490
- ワールドコミュニティセンター 032) 773-7511



### 共用駐車場の案内

#### チャイナタウン公営駐車場

- 所在地：チャイナタウン路44番キル28-12 (仁川駅向かいのチャイナタウンの牌楼(中華街)を過ぎて左側)
- 営業時間：年中(有料、09:00~21:00)

#### 韓中文化館公営駐車場

- 所在地：済物梁路238(韓中文化館)
- 営業時間：年中(有料、10:00~20:00)

#### 中区庁公営駐車場

- 所在地：新浦路27番キル80(中区庁)
- 営業時間：年中(有料、月曜日~金曜日は08:00~19:00 / 土・日曜日は10:00~20:00)

#### 仁川第8埠頭駐車場(臨時駐車場)

- 所在地：仁川第8埠頭入口(月尾島入口三叉路)
- 営業時間：07:00~21:00(無料)



### 交通アクセス

#### 地下鉄をご利用の方

- 1号線をご利用の方：仁川駅下車
- 水仁線をご利用の方：仁川駅または新浦駅下車 (新浦駅下車の場合、中区庁まで徒歩10分)

#### バスをご利用の方

- 中区庁下車：15、28、307番バス
- 仁川駅下車：2、10、15、23、28、45、307番バス
- 新浦駅下車：9、23、24、72番バス
- 新浦市場下車：4、12、15、16、23、24、28、45、72、112、307、517、521、519番バス

#### お車をご利用の方

- ナビゲーションのご案内：チャイナタウン公営駐車場、仁川中区庁、韓中文化館、仁川第8埠頭入口(臨時駐車場)



### 仁川シティツアー

- 営業時間：09:30~16:40 (出発時間基準)
- ※ 毎週月曜日は休み

- 配車時間：30分間隔

#### ご利用料金

- 中・高校生~一般 5,000ウォン
- 満36ヶ月以上~小学生 3,000ウォン
- お身体の不自由な方、国家有功者、満65歳以上の方 3,000ウォン

- 運行コース (お問い合わせ：www.travelicn.or.kr 江西観光 032-772-4000)



発行先：仁川広域市中区観光振興室 発行日：2017年5月 デザイン/編集：クワンチャン文化社





## 開港期における歴史と文化の出会い 開港場



**1 仁川開港博物館(旧仁川日本第一銀行支店、市有形文化財第7号)**  
 1883年に韓国初の近代的金融機関である日本第一銀行釜山支店の仁川出張所として開設。1888年には仁川支店に昇格した。初期には海関税と韓国で生産される金塊や砂金を買い取る業務を代行していたが、徐々に預金やローンなどの銀行固有の業務を担当するようになった。左右対称・折衷主義様式の西洋式建築物で雄大さが印象的なスポット。  
 ☎032) 760-7508



**2 仁川開港場近代建築展示館(旧仁川日本第18銀行支店、市有形文化財第50号)**  
 長崎に本店を置く日本第18銀行は、イギリスとの綿織物の仲介貿易で大きな利益をおさめ、1890年に仁川支店を開設した。その後、朝鮮殖産銀行仁川支店、韓国興業銀行支店として使用された。現在は近代建築展示館として改装し、数多くの近代建築物を展示している。木造トラスに日本式の瓦を使用した奇棟屋根で異国的な雰囲気をかもし出す。  
 ☎032) 760-7549



**3 旧日本第58銀行支店(現在の中区料業協会事務所、市有形文化財第19号)**  
 1892年仁川典拠局で製造される新貨幣の交換のため、日本第58銀行仁川支店として設立。その後、安田銀行、朝興銀行仁川支店、大韓赤十字京畿道支社の社宅として使用された。フランス風のレンガ造りの建物で、上に持ち上げる様式の窓、壁や柱などがいまだに原形を保っている。  
 ☎032) 760-6470, 772-8612



**4 中区庁(旧仁川府庁舎、登録文化財第249号)**  
 日本は1883年、日本の租界内に住む自国民の保護を目的に木造二階建ての領事館本庁舎を建てた。1906年2月、日本が統監府を設置した後は理事庁の庁舎として、1910年に朝鮮総督府が設置された後は仁川府庁舎として使用された。1964年3階を増築し、解放後は仁川市庁として、1985年以降には中区庁として使用している。モダニズム建築様式に見られる水平連続窓が特徴だ。  
 ☎032) 760-6470



**5 日本風通り**  
 仁川広域市中区庁の前は開港期に日本人が住んでいた日本の租界で、日本の植民地時代であった頃に建てられた近代建築物と最近改築された近代式建築物、並びに造形物が混在している。開港初期の仁川市に建てられた日本風の住宅は、お店と一緒にある木造住宅で、町家形式(木造二階建ての日本の伝統都市住宅様式)と長屋形式(1階建ての木造の長屋)がほとんどであった。1930年代以降には日本の文化住宅(日本の植民地時代に西洋住宅の構造や空間構成、そして外観などをモチーフに建てられた住宅)が仁川市内のあちこちに建てられた。それらの建物は今でも官洞と新興洞一帯に残っている。  
 ☎032) 760-6470



**6 済物浦倶楽部(市有形文化財第17号)**  
 1901年、現在の自由公園の麓に、開港期に仁川市に住んでいた外国人の親睦を深める社交場としてロシア人のサバティン(Sabatin)が建てた2階建てのレンガ造りの建物。1914年以降、日本在郷人会が使用していた時には「精紡閣」と呼ばれた。その後米軍の将校クラブ、市立博物館、文化院など多彩な用途で使われた。2007年以降には済物浦倶楽部の昔の姿を再現した文化空間として活用されている。  
 ☎032) 765-0261



**7 自由公園**  
 1888年に造成された韓国初の西洋式近代公園で、1897年に造成されたソウル市のタブコル公園より9年前に造られた。公園の設計はロシアの土木技師サバティン(Sabatin)が担当し、各国共同の租界内にあったことから「各国公園」とも呼ばれた。日本の植民地時代には「西公園」、解放後は「万国公園」と呼ばれた。その後、1957年にマッカーサー将軍の銅像が立てられた後から現在まで「自由公園」と呼ばれている。  
 ☎032) 760-7580



**8 韓米修交100周年記念塔**  
 韓国とアメリカは1882年、最恵国待遇・居中調整・関税などを含む十四ヶ条からなる「朝米修好通商条約」を締結した。この条約は韓国が初めて欧米国家と締結した修交通商条約である。韓米修交100周年記念塔は1982年、その歴史的事実を記念するとともに、今後の両国間の相互信頼と協働関係の持続的発展を願って建てられた。  
 ☎032) 760-7580



**9 虹霓門(市有形文化財第49号)**  
 鷹鳳山を貫いて仁川港と銭洞を連結するアーチ型の石門。1905年に日本の工兵隊が着工して1908年に完成した。日本はこれによって飽和状態だった日本の租界を万石洞まで確張ることができ、虹霓門の上に道ができて内里教会から自由公園の上り口まで続くプロムナードが形成された。  
 ☎032) 760-6470



**10 仁川内洞教会(内洞聖公会聖堂、市有形文化財第51号)**  
 1890年にイギリス海軍の従軍神父コープ(Charles John Corfe)司教とランドイス(Eli Barr Landis)博士が宣教及び医療活動のために済物浦に到着し、1891年に聖ミカエル教会を建てた。その後、韓国戦争で被害を受けたため、ルカ病院の敷地(現在の内洞教会)に移転。この教会はイギリス人の戦没将兵を追慕しようと遺族の募金で建立した戦争記念教会でもある。建築様式は、屋根の木造トラスを除いた外壁などは花崗岩を積み重ねた中世風の石造りの建物だ。  
 ☎032) 765-9004



**11 内里教会(ウェズリー礼拝堂)**  
 1885年北監理会の宣教師ヘンリー・ジェラード・アペンゼラー(Henry Gerhard Appenzeller)が宣教のために入国して1891年に建てた監理教会。韓国初の組織教会で「韓国の母胎教会」と言われる。内里教会の第二代牧師のジョーンズ(G.H.Jones)牧師は1901年、現在の内里教会がある場所に十字架型のレンガ造りの礼拝堂(246㎡)を建てた。50年余りの月日が過ぎた1958年12月、延べ面積1,066㎡規模の二階建ての教会が完成したが、1964年2月に火事で焼失したため、新たに建て直した。この建物を内里教会創立100周年の年に壊し、1985年に現在の礼拝堂を建てた。  
 ☎032) 760-4000



**12 沓洞聖堂**  
 沓洞聖堂はパリ外邦伝教会所属のヴィルヘルム(Wilhelm)神父が1889年に済物浦聖堂を創設したことが始まり。現在の建物は1937年6月に建てられた。レンガ造りのロマネスク建築様式で、1890年代に建てられた韓国の聖堂の中で最も古い西洋式近代建築物の一つである。このような歴史的な意味が認められ、1981年9月25日史跡第287号に指定された。沓洞聖堂の初代神父であるヴィルヘルム神父は、安重根義士に洗礼を与えた神父でもある。1910年3月には旅順監獄を訪ねた安重根義士と東洋平和論について話し合い、安重根義士のために祈ったと言う。  
 ☎032) 762-7613



**13 各国租界階段**  
 1884年、各国の共同租界が形成される時、日本の租界と各国の共同租界の間に造られた。虹霓門が開通(1908年)される前までは、官洞一帯から銭洞に向かう主な通路の一つだった。現在もその当時のままの原形が保存されている。  
 ☎032) 760-6470



**14 韓国近代文学館**  
 仁川文化財団と仁川広域市が協力して開館した韓国初の公共総合文学館で、19世紀に開港場の倉庫として使用されていた建物をリフォームして開館した。韓国の近代文学の成長をテーマにした常設展示や様々な企画展示、人文学の講座など各種プログラムを通じて韓国の近代文学が体験できる。  
 ☎032) 455-7165



**15 仁川アートプラットフォーム**  
 仁川アートプラットフォームには、旧日本郵船株式会社(登録文化財第248号)をはじめ、近代開港期及び1930年から1940年代の建築物をリフォームして創作スタジオ・工房・資料館・教育館・展示会場・公演会場など、計13棟の施設がある。開港期における都市の歴史性と場所性を文化的に再活用しようという市民の意志と仁川市の意志が一つとなって生まれた。  
 ☎032) 760-1000



**16 旧日本郵船株式会社仁川支店(登録文化財第248号)**  
 韓国内の沿岸と日本の物流運送を担当していた日本郵船株式会社は1888年に新築した建物と推定される。日露戦争の初期に済物浦海戦があった1904年には日本兵站司令部として、解放後は海運関連会社の業務用の建物として使用された。現在は仁川アートプラットフォームのアーカイブとして利用されている。  
 ☎032) 760-1000